

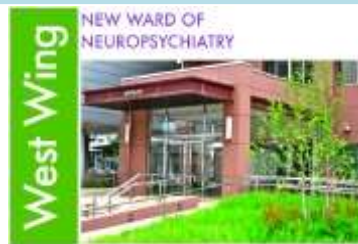
診療科目

精神科神経科・子どものこころの診療部

専門医研修指導医

責任者：中尾智博 教授
 実務者：鬼塚俊明 准教授、
 山下洋 特任准教授

令和2年度 後期専門研修医 13名



取得可能な認定医・専門医

全員が取得できるもの：厚生労働省：精神保健指定医申請資格
 希望者が取得できるもの：下記学会の認定専門医
 日本精神神経学会、日本児童青年期精神医学会、
 日本老年精神医学会、日本総合病院精神医学会、日本精神分析学会、
 日本行動療法学会、日本てんかん学会、日本森田療法学会、
 日本睡眠学会、日本臨床精神薬理学会、など

専門医研修システム

2コースを開設しており、5年のコースです。

◆ 日本精神神経学会専門医取得コース（5年）

原則として5年間で精神科後期研修を終了する。研修1～3年目には、十分な一般精神医学（general psychiatry）の知識と経験を身につけ、4～5年目には、児童精神医学、老年精神医学、生物学的精神医学、精神薬理学、認知行動療法、てんかん学などのサブスペシャリティーを習得する。

大学病院では、リハビリテーション、コンサルテーションリエゾン精神医学を、単科精神科病院では、精神科リハビリテーションの研修、急性期精神科救急医療を、総合病院精神科では、急性精神疾患の診断治療、精神疾患患者の身体合併症の治療等を経験し、全般的にもれなく精神科医療一般を習得し、専門医、あるいは精神保健指定医の受験資格を満たす。

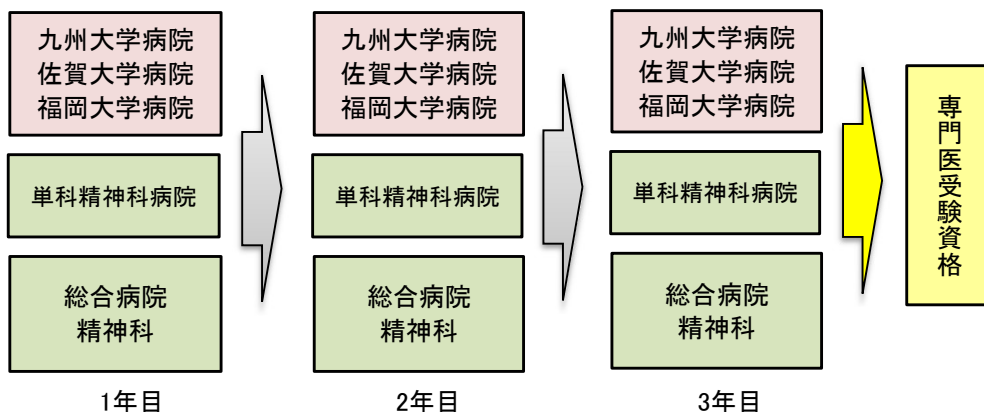
◆ 児童精神医学認定医取得コース（5年）

2年間の精神科後期研修のうち、下記3年間の児童精神医学研修を行う。

1年目；九大病院精神科、児童思春期ユニットに入院する患者の入院治療、子どものこころの診療部での新患診察による初期診断評価と治療プラン作成等の臨床トレーニング。ロンドン大学ディプロマ・コースに準拠した児童精神医学の包括的なレクチャー。

2年目；診療部外来患者の担当医として治療に従事。ケース・レポートと臨床カンファレンスでのプレゼンテーション。院内小児医療センター・総合周産母子センターとのリエゾン業務。子どものこころの診療部の臨床研究への参加。

3年目；九大の児童精神科関連機関での診療従事・多職種連携による臨床経験。



※ 関連病院

太宰府精神医療センター、肥前精神医療センター、小倉医療センター、
 九州医療センター、飯塚病院、琉球病院、こども病院など

九州大学精神科とは／教授より

「心を知り、脳を知り、人間とその社会を理解できる」優秀な精神科医を育てること。そして超一流の仕事ができる精神科医が教室から巣立ち、臨床・研究・教育の現場で大活躍すること、そしてその活動が精神疾患で悩む患者や家族の助けになることが教室の理想です。このために、教室の先生方がいきいきと楽しく働き、ひと味違ったいい仕事ができるような環境を整えたいと思います。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しています。そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与しています。複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、自ずと研究課題は広がっていきます。乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてに研究のメスを入れ、またアプローチの面でも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘っています。この多様性をもって、謎に包まれた心と脳的神秘に肉薄する。これこそが九大精神科の特色です。九大精神科は1906年の開講から今日までの110年を超える歴史の中で、精神医学の発展に大きな貢献を果たしてきました。先達によって築かれたこの教室の歴史と伝統を財産として受け継ぎながら、これからの精神医学の発展に向けて皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

研修について

後期研修では、まず精神科臨床をじっくりと掘り下げながら実践的に経験し、知識を深め、技術を高めていきます。教室ではさまざまな分野の専門家が臨床の指導にあたり、精神疾患の診断と治療を広く深く学べるよう配慮しています。外来、デイケア、そして運動場や広いテラスを備えた65床（閉鎖34床、保護室13床、身体疾患治療病床5床を含む）の病棟施設を保有しています。研修では病棟診療が中心になります。3名の指導医がマンツーマンの指導を行いますので、日々相談しながら実践的に学んでください。病棟では、統合失調症、気分障害、不安障害、発達障害、認知症といった代表的な疾患の診療を幅広く経験できます。さらにリエゾン精神医学を専門とする教員について各科に出向き、身体疾患に併発する精神疾患の治療についても多くの経験を積むことができます。そして精緻な薬物治療戦略、クロザピンや修正型電気治療を用いた難治症例の治療、認知行動療法をはじめとする系統的療法による介入など、精神科医に必要な治療技術を十分に身につけていくことができます。さらに症例検討会や研究会、外部講師による講演会も頻回に開催され、知識と経験を高いレベルで統合していくことが可能になっています。

もう一つの特徴は北部九州一円をカバーする多くの連携医療機関を有していることです。九州医療センターや小倉医療センター、あるいは肥前精神医療センターや太宰府病院、私立の単科精神科病院、公的な行政機関をローテートすることにより、精神科救急、総合病院精神科医療、社会復帰リハビリテーション、精神保健福祉行政などについて研鑽を積むことができます。

医局長より

当教室の後期研修では、九州大学病院、九州医療センター、小倉医療センター、飯塚病院などの総合病院精神科だけでなく、太宰府医療センターや肥前精神医療センターに代表される単科精神科病院において、精神疾患の診断と治療の基礎的な知識と経験を身につけることができるよう研修プログラムを構成しています。皆様は臨床精神科医として各病院の指導教員から助言と指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域と連携して各種精神科疾患の診断と治療の実際を学ぶことができます。また、皆様が研修する各医療機関はいずれも精神科専門医の研修施設に認定されていますので精神科専門医はもちろんのこと、精神保健指定医の取得も全面的にサポートできる研修先を提供することを約束いたします。さらに、後期研修中は（あるいはそれ以降の臨床）、ご希望に応じて精神保健や司法に関する公的機関や精神科外来・リエゾン・緩和ケアなどを主体に行う病院での勤務など幅広い選択肢を用意しています。皆様は当教室の後期研修を通じて精神医学の多様性や複雑さを経験することができるでしょう。

次に研究について概説したいと思います。精神疾患の生涯有病率は約50%といわれていますが、その実態は未だ不明な点が多いです。当教室は乳幼児から高齢者にわたる幅広い精神疾患を対象に、臨床と密接に結びつけた研究を行っています。各分野の研究室では、研究室チーフの指導のもと、大学院生や研究生が日々研究に没頭しています。研究と聞きますとwetなイメージがあるかもしれませんが、当教室は伝統的にかなり自由な雰囲気があり、各自が自身の研究テーマをマイペースに進めています。そのような中でも研究成果は着実にでており、常に新たな知見を世界に向けて発信し続けている当教室です。後期研修中に大学院、研究の道に進むのも選択肢の一つです。興味のある先生は遠慮なく私どもにご相談下さい。

以上、簡単ではありますが当教室について紹介いたしました。実際に見学に来て頂ければ、自由でおおらかな雰囲気のなかで臨床や研究が熱心に行われている様子をわかって頂けると思います。随時、電話やメールでご相談を受け付けておりますので、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

後期研修医の声

（後期研修9年目・男性） 大学病院の良いところは様々な専門の先生から意見を聞くことができ、講習会や勉強会に参加できる機会も多く、見識を広げられることです。また、一人の患者さんにじっくり接することができ、一症例から学ぶことが多いと思います。他の研修病院は地域の精神医療の中核となる精神医療センターや単科精神科病院、総合病院があり、様々な精神疾患から身体合併症まで幅広く経験できます。とても恵まれた環境だと思うので、精神医学に興味のある方は是非見学に来ていただければと思います。

(後期研修1年目・男性) 学生の頃より精神科を志望しており、医局の暖かい雰囲気や穏やかな先生方に惹かれ入局致しました。診療にあたっては、諸先生方の手厚いご指導を頂け大変勉強になっています。初期研修医を終え、医師としてまだまだ不慣れなことも多いですが、様々な症例を経験でき、一人一人の患者さんと密に関わる事ができることができ、充実した日々を過ごすことができます。精神科に興味のある方は是非一度見学にお越し下さい。

(後期研修1年目・女性) 1年目は大学病院にて日々、基本的な部分から学ばせていただいております。様々な症例を経験でき、また、たくさんの指導医の先生方のご指導をいただける恵まれた環境であると感じております。雰囲気も良く、いつでも相談しやすい環境です。精神科に進むと決めている方も、少し考えている方も、是非一度見学に来ていただけたらと思います。

連絡先

電話： 092-642-5627 F A X： 092-642-5644

E-mail： ohara77@npsych.med.kyushu-u.ac.jp

担当者： 医局長 小原知之

診療科HP：<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/psychiatry/>